



先生からのメッセージ

外国語学部では、英語以外の言語を教えるとき、高校までその言語を学んだことがない、つまり初習言語だということを前提にカリキュラムをつくっています。初習言語では、90分授業が週5〜6回(毎日)あり、これを入学後の最初の2年間続けることで、その言語をマスターします。外国語学習はこうした密度の高い集中学習が効果的なのです。ところで、いま、「英語以外の外国語」を学ぶなら、ロシア語がおすすめです。近年のロシア経済の発展はめざましく、ビジネスでロシア語を使う機会が今後はもっと増えると予想されるからです。

関心ランキング 第160位

国際関係

語学

夢ナビ講義 No.00399

英語が苦手な人でも ロシア語が上達する理由

上智大学
外国語学部ロシア語学科 教授
上野 俊彦 先生



ロシア語は 日本人になじみやすい

ロシア語はロシア連邦の公用語で、他にベラルーシ、カザフスタン、キルギス、ウクライナなど、旧ソ連圏で広く使われている言語です。言語別人口では世界第9位に位置し、世界中で約1億4500万の人が話しています。さらに、「通じる」ということであれば2億人程の言語人口になるであろうと推定されています。

言語圏が広大な割には言語人口が少ないこともあって出会いは多くありませんが、実

は、日本人になじみやすい言語でもあります。具体的に言うと、ロシア語は(1)a, theのような冠詞がない(2)形式主語がない(3)語順の自由度が高いことが英語と違う点です。つまり、ロシア語の特徴を英語に例えて示すなら、「This is a pen.」が「*This pen.*」に、「Is this a pen?」が「*This pen(↑)*」となります。なるほど日本語とよく似ています。また、英語のように消音がありませんので、文字の通りに発音することができます。例えば英語

のknife(ナイフ)のkは発音しませんが、ロシア語はこのような消音が少ないのです。その上、音の波形が日本語に近く、「音」として日本人に聞き取りやすいと言われます。それによって中学、高校と英会話に苦労した人でも、ロシア語ならスムーズに入っていけるのです。

英語以外の外国語を学ぶ意味

英語は国際的なコミュニケーションツールとして重要な言語です。とはいえ、英語ができるだけで世界を理解するのは困難。なぜなら、英語を母国語としない国や地域がたくさんあるからです。言語は民族の特徴の一つと言われるように、特定の地域で話されている言葉が分からずに、その地域の政治・経済や歴史、文化を理解するのは容易ではありません。

それを踏まえて、真の国際人になるには、英語以外の言語を最低一つは身に付ける必要があります。そのためには、まず強い関心を持つこと。ロシアをもっと知りたい、理解したいというモチベーションが強い人は、必ずやロシア語をマスターできるでしょう。